

○ 避難所生活について



住用体験交流館での避難生活の様子

平成22年の奄美豪雨災害の時は、10月20日から11月26日までの期間に、延べ3,997名が39箇所の避難所で生活を送ったんだよ。

被害が大きかった住用地区では住民の60%が集落の集会所や学校に避難したんだよ。



豪雨災害での避難後に、困った事として意見が多かったのは「停電や電話が繋がらずに、周りの状況が分からなかったこと」だったんだ。一方で、知りたい情報を伝えてくれたメディアとして一番多かったのは「あまみFM」だったんだよ。

また、災害後のアンケートでは、「防災バッグを準備しておく。」「非常持ち出し袋を用意しておくべきだった。」という回答も多く見られたんだ。

トイレの数が少なくて困った。

間仕切りがなくて、プライベートな空間が無かった。

支給される食べ物の中に、アレルギーで食べることができない物や、お年寄りには固くて食べることができない物があって困った。

公衆電話の前に多くの列ができていた。

携帯の充電が切れた。(NTTが用意した充電コーナーは大変混雑した。)

洗濯ができずに困った。

自宅から避難所までの道路でがけ崩れがあって避難所まで来れない人たちもいた。

市の職員の方々は、床の上に、じかに寝ていた。



避難所での生活になると、どのような事が困りそうかな？みんなで意見を出し合ってみよう!!



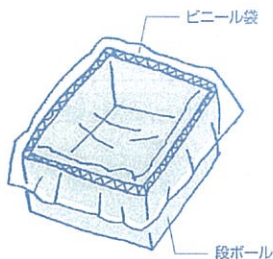


避難しなければならなくなった時に、持ち出す物を決めておいた方が安心だね。避難時に持ち出したい物を書き出してみよう!! 自然災害がいつ起こってもいいように準備をしておきたいね。



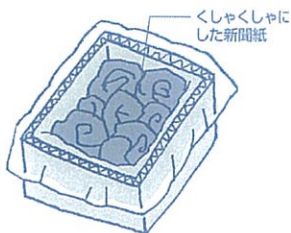
作る 自分専用の新聞紙製トイレを作る

①段ボール箱にビニール袋をかける
案にまたげる大きさの段ボール箱を用意し、その上からビニール袋をかぶせて底に敷きつめる。段ボール箱の外側まで覆うことができるように、ビニール袋はなるべく大きいものにする。



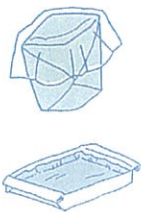
②くしゃくしゃの新聞紙をビニール袋の中に敷く

排泄物の水分を吸収するように、揉みほぐしてくしゃくしゃにした新聞紙をビニール袋の中に敷く。用をすませたらビニール袋の口を縛って処分する。



入れる 新聞紙の食器で衛生的な食事

食器が十分に足りないときは、次の順番で新聞紙を折ってコップを作る。①正方形に切った新聞紙の対角線を折って三角形にする。②左右の角が反対側の辺に来るように折り、五角形を作る。③余った上部の三角形を折りたためば完成。そのままだと水が漏れるので、ビニール袋をかけて使う。また、新聞紙の端を折りたたんで上からアルミホイルで覆えば、お皿としても使える。



『巨大地震危機回避マニュアル』から引用



緊急時には、新聞紙やビニール袋が大活躍だね!!

○ 復旧・復興に向けて



災害後の作業の様子(住用総合支所)

奄美豪雨災害発生以降、土砂や災害ゴミの運び出し等のボランティア活動が活発に行われたんだ。

延べ 2,282 名のボランティアが奄美の復旧・復興のために協力してくれたんだよ。

また、全国から食料や衣類等の多くの物資や、4億5千万円もの多額の募金が届けられたんだ。



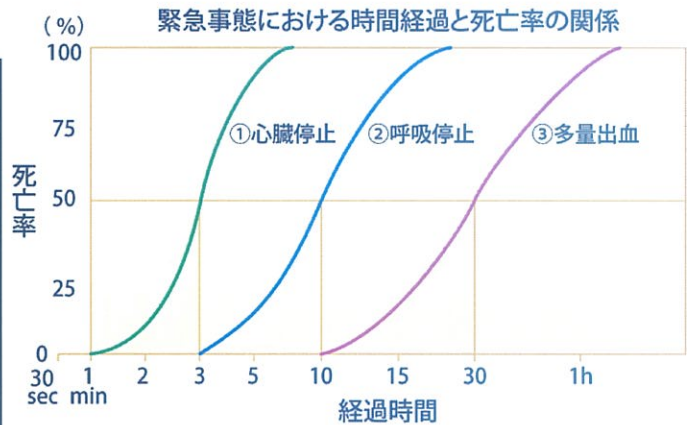
○ 応急処置についての学習



自然災害時には、ケガや病気の人が出る可能性があるよね。

右の図は「カーラーの救命曲線」と呼ばれるものだよ。心臓が停止している場合は、1分経つごとに助かる割合は10%ずつ減っていくんだ。

だから倒れた人に反応がない場合には、その場にいる人が1分でも早く救命の手当を始めることが大事なんだよ。



①心臓停止後3分で50%死亡します。

②呼吸停止後10分で50%死亡します。

③多量出血後30分で20%死亡します。

消防署の方から教えてもらおう!!

1 Call(コール)
119番通報とAEDの要請

まずは倒れている人に声をかけて意識があるか確認しよう!! そして、救急車を呼んだり、周りの人に応援を頼んだりしようね!!

2 Push(プッシュ)
胸の真ん中を真上からPush(胸骨圧迫)

3 Push(プッシュ)
AEDをPush(電源ボタンをおす・安全を確認しショックボタンをおす)

「命を守る 心肺蘇生・AED」(全教図)から引用



出血量が多いと、命が危ないから、すぐに傷口を清潔なガーゼ等で押さえることが大事だよ。血液には直接触れないように気を付けてね!!

